

第1回松本市公民館運営審議会 会議録

日時 令和5年10月5日(木) 18時から20時

会場 松本市中央公民館4階 4-1会議室

1 開会

2 中央公民館長あいさつ

これから2年間にわたり、日頃の実践や経験を活かして、公民館運営のあり方や課題などに対し、活発な議論をお願いしたい。

公民館運営審議会は、昭和24年の発足以来、中央公民館長の諮問に対し答申8回、また、独自にまとめた提言書・意見書・報告書などを7件提出いただき、松本市の公民館運営の大切な指針となっている。

松本市では、令和4年2月に松本市教育大綱を策定し、「子どもを主人公とし、その学びを地域社会全体で支えること」を学都松本の根本に据え、子どもや若者への事業を重点的に進めている。

中央公民館では、教育大綱などに基づき、子ども若者の居場所づくりとして、中央公民館での2階フリースペースの拡充や地区公民館での居場所づくりなどを進めている。

委員の皆さまには、市政の動きと教育委員会の取組みをご理解いただき、公民館が、子どもから高齢者まで幅広い世代、あらゆる立場の住民が集う、生涯学習の拠点となるよう、新たな地域づくりを含めて、ご審議等をいただきたい。

3 自己紹介

名簿順に自己紹介

4 役員の選出

(1) 松本市公民館運営審議会規則により、委員の互選で選出

自薦、他薦がなかったため、事務局案を提案し、了承

委員長：向井 健

副委員長：立石 恵子

(2) 役員就任のあいさつ

ア 向井 委員長

コロナ、高齢化などで、町会での助け合い、大きく変わってきた。社会教育の果たす役割が大きくなってきた。また、公民館の関わりが重要だと考えている。

公民館運営審議会では、これからの地域社会をどうするかを考えていきたい。

最近発行された「地域社会におけるウェルビーイングの構築」(松田武雄著)では、松本市の公民館の取組みなどが紹介される中、ウェルビーイングという「よりよく生きること」が、これからの地域社会に求められること等が述べられている。また、国

の中教審・生涯学習課審議会でも、ウェルビーイングについての議論がされている。

地域や町会で行われている普段のいろいろな活動が、人々がよりよく生きて行くこと＝ウェルビーイングを作っていくことだと感じている。

公民館運営審議会でもこうした議論をしていきたい。

イ 立石 副委員長

今日、中央公民館の2階に寄ったら、沢山の学生さんがぞろぞろ入っていく光景を目の当たりにした。これまでにはないことだと思う。子どもたちが集っていることは、良い周知ができていることだと思う。

画一的に考えるのではなく、自分の足で歩ける狭い地域を大事にし、いろいろな立場の人たちが集まって、顔の見える関係を作ることが大切だと感じている。

公民館運営審議会では、そうしたことを大切にして議論したい。

5 議題 (以下、敬称略)

(1) 公民館運営審議会について (説明：事務局)

(向井) 補足として。公民館運営審議会には、いろいろな立場の人達が委員として、各々が関わる日頃のことを持ち寄り、話し合っていく場、「学ぶ公民館運営審議会」という側面もある。そうしたことも大切にしたい。

(2) 公民館の概要 (説明：事務局)

(前田) 子ども・若者の居場所の中間経過では、スペースが増え、利用人数が前年度の月平均から3倍増えたことは良いこと。

利用者の増に伴って、新たに課題は生じたか。

→ (事務局)

利用者からの要望にいくつか応じている。例えば、昼食場所が足りないといった要望には、試行的に昼食会場を開放した。実際どのくらいのニーズがあるのかを含め、様子を見ているところ。

(降籟) 地区公民館の開放では、子ども食堂をやっている団体など、地区の団体と連携することはあるのか？

→ (事務局)

島立などでは、子ども食堂との連携はあるが、地区公民館の開放の取組みとは別でやっている。

(降籟) 工夫が必要だが、本来連携しても良いのでは。

(染井) 高校生が集まってくる。とても良いこと。でも、駐輪場がいっぱいで、高齢

者など、ほかの利用者が止められない状態。そういったことへの配慮も必要。

→（事務局）

検討したい。駐輪場の混雑は放置自転車も原因の一つ。定期的に貼紙をして警告し、撤去している。今後もそういった取り組みをしたい。

（小峰）部活動の地域移行はどのように進めているか。地域には指導者が結構いるので、部活動の地域の受け皿として活用したらどうかと思っている。

→（事務局）

現在、関係課で検討をしている。また、行政職員だけではなかなかうまくいかないので、協議会を立ち上げ、有識者や関係団体の市民など、様々な方の意見を聞きながら進めている。もう少しお時間をいただきたい。

また、市内の団体に指導者の調査を行っている、できるところからやっている。スポーツ系は指導者が分かりやすい。文化系は、指導者が表に挙がってこない現状があり、難しさを感じている。

（降旗）公民館では、文化団体の活動をやっている。公民館が人をつなぐ役割をする必要がある。

（向井）公民館は、人と人をつなぐ役割がある。部活動の地域移行でも、学校や子どもたちと指導者をつなぐことができるのではないかと思う。

→（事務局）

コンクールの出場を目指している団体、楽しみでやる団体 二極化があり、指導者の発掘にも、丁寧な対応が必要だと感じている。

（中田）部活動の地域移行は、千曲市はすごく進んでいる。そういうところの資料を読みながら、できることできないことが分かってくる。難しさはあると思うが、なるべく早く進めてほしい。

（小穴）公民館の組織体制について、中央公民館と地区公民館のことは分かったが、地域づくりセンターと福祉ひろばは、それぞれ何をやっているのか。

→（事務局）

地域づくりセンターは、支所出張所業務なども担当し、地域づくりを主に行っている。福祉ひろばは福祉の公民館といわれるところ。

(小穴) 組織が違うのものをまとめて、公民館に入っているというイメージは確認できた。でも、何か相談に行くと、公民館では「いいね」と言ってくれても、別の職員がそうではなさそうなので、面倒くさいなと感じている。

(向井) 地域づくりセンターであろうと、公民館であろうと、住民の声をちゃんと聞いて対応することが大切だと思う。

(立石) 地域づくりセンター長は正規職員、公民館長は地域住民から推薦の会計年度任用職員。それぞれの立場で地域づくりを考えているが、共存できると良いと思う。

(百瀬) センター長は行政、公民館長は地域の人。それぞれの良さを生かすには時間がかかる場合もあると思う。

町内公民館長会では、今年から研修に幾人かの公民館主事に参加してもらったところ、すごくいい雰囲気になった。今後は、もっともっと主事会と連携することで、町内公民館にもいい動きが出るのではないかと期待している。

(向井) 公民館主事が町内公民館長を知り合っていくのはとても良い事。職員が地域を良く知る機会にもなる。

(久保田) 私が住んでいる地区の公民館活動は盛ん。公民館主事が地域の人が相談などしたことを、じゃあって言って取り上げてくれるのが、地域にとっても職員にとっても、良いと思う。

公民館は、主事や館長の力量も必要だが、地区が職員を育てることに関わっていくべきだと思う。職員は地域外の人が多いので、地区の方からアプローチをしながら、職員を育てていくことが重要だと思う。

(向井) コミュニティスクールについては、大野川小中学校でどう進めていくかが、今後の展開の試金石だと理解している。松本版と国型のいいところとわるいところを整理すること、また地域学校協働活動推進員の力量についても検証してほしい。

(五明) 小学校としては、コミュニティスクール、住民のつながりの中ですごく助けてもらっている。筑摩小学校では、総合学習の時間で防災のことをやった。地域の方が自助・共助を、日頃のつながりの中でやっていることが学べた。ただ、つないでいる人の高齢化が課題だと感じる。

大野川のモデルでは、地域学校協働活動推進員の興味を持っている。実際学校には行ってどんなことをしているのか、人材のあり方も含め検証の結果を待ちたい。

い。また、今後の学校にどう配置してもらおうのかという点にも興味を持っている。

(阪口) 2年目。コミュニティスクールは、公民館長が地域のことを良く知っている
のでよくやってもらっている。

コロナで地域とのつながりが切れてしまっているところがある。その中で、中
学3年生が、地域貢献をやっている。こうした取組みから、地域とのつながりを
一つずつつくってもらいたいと考えている。

(3) 松本市公民館の特徴：向井委員長説明
時間の都合で質疑なし